

平成22年度公開講座報告

高知女子大学看護学会企画委員長 長 戸 和 子

平成22年度高知女子大学看護学会公開講座を平成23年4月23日（土）池キャンパス大講義室において開催した。兵庫県立大学看護学部教授の坂下玲子先生を講師にお迎えし、「口腔ヘルスプロモーション—口からつくられる健康—」と題して、日常的なケアの中で人々の健康の保持増進に寄与するという看護職の責務を果たしていくためのアプローチについてご講演いただいた。高知県内はもとより、愛媛県や徳島県から、また、看護職だけでなく、歯科衛生士や介護福祉士も含めて85名の参加があった。

講師の坂下先生は、形態機能の面から健康をとらえ、その人の発達を促し健康を回復、増進していくという「ヘルスプロモーション」の立場から、国内外をフィールドとして口腔保健に関する研究に取り組まれており、それらの研究成果も織り込みながらのご講演であった。看護職は、口の中を清潔に保ち、肺炎を予防したり食欲増進につなげるというような疾病予防や合併症予防を目的とし、日常的な生活援助のひとつとして口腔ケアを実施している。しかし、坂下先生のご講演を聞き、単なる日常生活援助の枠を超え、まさしく口の中から、その人の健康を創りだしていくという積極的なアプローチとしての意味を学ぶことができた。また、解剖生理学的な知識に基づき、ケアの対象者の口腔の状態や全身状態を的確にアセスメントし適切なケア方法を選択、実施することは、最も長い時間ケア対象者のベッドサイドにいて、その人の生活に焦点をあてる看護職ならではの方法論で



あると感じた。

終了後のアンケートでは、「今回は“口腔”というテーマではあったが、すべてにつながる考え方で大切な視点を学んだ、ケアはパーツパーツではない、総合的にみる力、生活につなげていく視点が大切」「ヘルスプロモーションのためには解剖生理学的な知識、アセスメントのための知識、技術が重要であることがわかった」「口腔ケアだけでなく、看護師の患者に対するかわり方や役割を改めて学ぶことができた」などの意見が寄せられ、視点が広がり、ケアに対する見方の変化をもたらす講演であったことがうかがえた。また、「研究を重ねた先生の力量に感激」と、専門性を探究し続ける先生の姿勢からの学びも得られ、非常に有意義な時間であった。

